

## 奥野 侯子

Okuno Koko

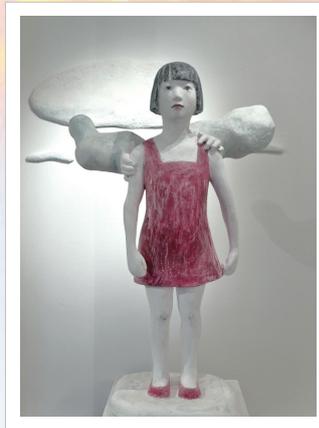
苫小牧市在住。道展会員。幼少期の私は、はまなすの花が咲く海岸線や鉄道に沿って延びる野草を散策しながら通学したものです。海風、山風に吹かれ、一人、幻想にふけりながらの帰路は至福の時間でした。沁み渡ってゆく喜怒哀楽ともいえる風を全身で楽しんでいたのかもしれませんが。折に触れ、形を変えながら、今も静かに「かほる風」。そっと優しく寄り添えたら嬉しいです。



## 伊藤 幸子

Ito Sachiko

札幌在住。高校入学までは父の転勤で引越しばかり。大学で彫刻を学び、2005年に道展会員。現在、高校・専門学校で講師をしながら制作を継続。直付けという制作法で芯材に石膏を付けて削るを繰り返して成形しますが、特に顔は削り方を少し変えると様々な表情が生まれ、昔、住んでいた町の豊かな自然と香りを纏った誰かが現れたり…。私の作品を通して心の中の誰かに出会い、想いの旅をして頂けたらと思います。



### ● 展覧会

- 2021年 個展 (ギャラリーミヤシタ2011年から隔年)
- 2020年 ゆらぎととき 色と形と素材 (ギャラリーレタラ)
- 2014年 Sprouting Garden 「萌ゆる森」 (札幌芸術の森美術館・屋外)

## 佐藤 綾香

Sato Ayaka

札幌市在住。札幌大谷大学短期大学部研究生美術専攻修了。多摩美術大学大学院研究科博士前期課程修了。道展会員。現在は絵画講師をしながら北海道を拠点に作家活動を行う。私自身、病院の受診を受けに来た時に、アート作品が病院の壁に飾ってあるとホッとします。ここは、身体を癒すための前向きな場所だと感じ、自然と不安もほぐれるように感じました。私がそのように感じたように、皆様の心に温かな栄養をアートによってお届けしたいと思い制作しました。また、アートというツールを通して医療従事者の皆様と病院にいらっしゃる患者さんのコミュニケーションに少しでも役立つ事が出来ればと思います。



札幌市在住。札幌大谷大学短期大学部研究生美術専攻修了。多摩美術大学大学院研究科博士前期課程修了。道展会員。現在は絵画講師をしながら北海道を拠点に作家活動を行う。私自身、病院の受診を受けに来た時に、アート作品が病院の壁に飾ってあるとホッとします。ここは、身体を癒すための前向きな場所だと感じ、自然と不安もほぐれるように感じました。私がそのように感じたように、皆様の心に温かな栄養をアートによってお届けしたいと思い制作しました。また、アートというツールを通して医療従事者の皆様と病院にいらっしゃる患者さんのコミュニケーションに少しでも役立つ事が出来ればと思います。

### ● 展覧会

- 2021年 「plus art... fes.2021」クロスホテル札幌
- 2021年 「JRタワー・アートプラネッツ2021『ART DÉCOR アール・デコール』」\*プラニスホール
- 2019年 「佐藤綾香作品展「蝶と祭日」」\*札幌グランドホテル1階ロビー内グランビスタギャラリー

## 高橋 佳乃子

Takahashi Kanoko

岩見沢在住。道展会員。

オホーツク海に近い小さな農村で暮らしていた小学校低学年の担任の先生は、教室の片隅に常時水彩パレットと描きかけの画用紙を置き、子供たちが走り回る休み時間の中で窓からの風景を描いていました。



た。記憶に特に残っているのは、晩秋の鉛色の空と暗い色の収穫後のさつ風景なグレーの畑。当時の私は何処に興味があるのか不思議でしたが、絵の題材は、身近なところに潜んでいる事を教えてくれた思い出です。大切なものは身近にある事、さらに作品は回復力を生むきっかけとなる事を思い制作につなげています。ささやかな思いが届きますように。

### ● 展覧会

- 2021年 個展 (ギャラリーミヤシタ)
- 2020年 グループ展 ゆらぎととき 色と形と素材 (ギャラリーレタラ)
- 2017年 個展 (ギャラリーミヤシタ)

## ホスピタリアルアート

ごあいさつ

札幌ライラック病院  
総合支援センターらいらつく  
センター長

鍋谷 健彦 氏

『びょういんあーとぶろじえくと』は、医療の場を「こころの通った温もりの感じられる人間らしい空間に近づけようと、2019年から美術家17名による展覧会とイベントを当院で継続的に開催しています(5回開催予定)。昨年に3回目を終え、本年3月に4回目『Voor4・かほる風』展を開催します。

2019年以前の2008年からも長年にわたって当院にアート作品を届け続けてくださっています。「病院にかかわる多くのかたに安らぎやこころのゆとりを持って過ごして頂きたい」という願いから。

この願いを原点とするアート活動は院内にとどまらず、患者・家族・町内会、地域社会に広がり、今では「地域に開かれた病院」を目指す当院の取り組みになくはならないものになっています。コロナ禍である今、地域と医療従事者を繋ぐ手段、患者・家族と医療従事者の心にゆとりを届ける手段として『Voor4・かほる風』展に我々は期待しています。